

コロナ禍におけるサッカー界の発展を祈って

～東京五輪を終えて、女子プロサッカーリーグ開幕～

== ハーフ タイム ==
東京 F A 審判委員会
第 57 号 (2021 年 9 月)

2021 年夏、昨年からの延期期間を経て、無観客となりましたが東京五輪が開催されました。男子サッカーは、惜しくもメダルに届かず 4 位となり、女子サッカーは、ベスト 8 にて敗戦となりました。注目の審判団には、東京都所属の 2019 年女子ワールドカップフランス大会も担当された、山下良美主審と坊菌真琴副審が選出され、グループステージ、スウェーデン 対 アメリカの試合と、ブラジル 対 ザンビアの 2 試合を担当されました。

また、パラリンピック、ブラインドサッカーでは日本チームは 5 位という結果に終わりこちらもメダル獲得はなりませんでしたが、熱戦をテレビの前で応援された方が多かったのではないかと思います。こちらの大会にも、東京都所属でサッカー、フットサルの審判員資格を持つ高木和男氏、卜部靖氏、吉田豊宏氏、鈴木雄太氏の 4 名がブラインドサッカー国際審判員として選出されました。

オリンピック審判員に選出された山下、坊菌両氏と、パラリンピック審判チームを代表して、日本ブラインドサッカー協会の審判部長である、高木氏より、大会参加後のコメントを頂きましたので掲載致します。両大会共にコロナ禍における大会となりましたが、東京都の審判員の活躍と共に私達に勇気と元気を与えてくれた、東京五輪・パラリンピックになったのではないのでしょうか。

そして 1921 年に創立された日本サッカー協会 (JFA) は、今年 9 月に記念すべき 100 周年を迎えました。その記念すべき 2021 年 9 月、遂に女子サッカープロリーグ (WE リーグ) も開幕を迎えました。女子サッカーは、再び世界の頂点を目指し、レベルアップしてくれるものと期待します！



【左より山下氏と坊菌氏】



【山下主審】 オリンピックという素晴らしい舞台、生まれ育った東京でのオリンピックというかけがえのない機会に、サッカー審判員としてフィールドに立てたことを心から嬉しく思います。また、東京スタジアムでの試合を担当することができ、東京の皆様には直接試合でもお世話になり嬉しかったです。フィールドに向かう際には、今まで出会った全ての方々への感謝の想いを感じました。日頃のサポートや応援、本当にありがとうございます。

【坊菌副審】 オリンピックの東京開催が決定した当時、自分が参加するなんて夢にも思っていませんでした。無観客ではありましたが、皆様からの声援に背中を押していただき、力に変えることができました。ありがとうございました。

(日本ブラインドサッカー協会 審判部長 高木和男氏)

TOKYO2020 パラリンピック 5 人制サッカーにおいて、12 名の国際審判員のうち日本人 4 名が選出されたことは素晴らしいことです。今回のアポイントメントは、2019 年 10 月のアジア選手権@タイ・パッタヤでの最終選考を経ての結果ですが、パラリンピックの開催が 1 年延期になったことにより多くの困難もありました。コロナ禍で国内の試合もほとんどない中、試合勘を維持するのは我々審判員

も大変でしたし、国際試合は今年 6 月の WGP2021 のみでした。そこに参加した 5 か国は予備知識もありましたが、参加していないブラジル、モロッコ、中国がパラリンピックではベスト 4 に入りましたし、その他 5 か国

も 2 か月あまりでさらにレベルアップしていました。リオ・パラリンピックからの 5 年間で各国選手の競技力・技術力の向上は想像以上でしたが、あらゆる競技が一堂に集い、国を代表して戦うパラリンピックの舞台は、サッカー選手の意気込みや迫りも今までに感じたことのないレベルでした。世界最高峰のブラインドサッカー選手たちを、地元東京で実感できたことは大変貴重で光栄な経験でした。この経験を多くの方々と共有し、ブラインドサッカーを通じて、サッカーファミリーのさらなる発展に寄与していきたいと思っております。



【パラリンピックの審判団】



■サッカー2級審判員昇級者の紹介



2021年度春の関東2級昇級審査が行われ、新たに5名の2級審判員が誕生しました。
(昇級されました審判員の、喜びの声をお届けします。)



(サッカー2級審判員 潮見圭介 氏)

この度、S2級サッカー審判員に昇格させて頂いた潮見圭介と申します。昇格に際し多くの方にご指導、アドバイス、サポート、激励を頂きました。この場を借りて皆様に心より感謝申し上げます。大変ありがとうございました。ボールを蹴り始めて早35年、振り返ってみるとサッカーから多くのことを学びました。そんなサッカーに少しでも恩返しをしようと始めた審判活動でしたが、サッカーは再び私に多くの課題と共に成長の機会を与えてくれています。サッカーの奥深さに感謝しつつ、これからも努力を重ね精進したいと存じます。



(サッカー2級審判員 土肥武史 氏)

この度、2021年度春に昇級させて頂きました、土肥武史と申します。東京都サッカー協会審判委員会の皆様はじめ、グラウンドでいつも熱心にご指導して下さったインストラクターの皆様、試合会場や研修で切磋琢磨した審判仲間、これまで私の審判活動に関わって頂いた、全ての方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。長年目標にしていた2級に到達できたことは嬉しく思うと同時に、本当に身の引き締まる思いでいっぱいです。今後は、2級審判員として活動させて頂くこととなりますが、常に向上心と好奇心を持つことを忘れず、多くの人に信頼される審判員になれるよう精進して参ります。今後ともご指導の程、よろしく願い申し上げます。



(サッカー2級審判員 堀内翔平 氏)

この度、2021年度春に昇級いたしました堀内翔平です。「サッカーが好き」から始まった審判生活も、また一つ違うステージでの挑戦の機会をいただくことができ、大変嬉しく思っております。これも、今までに審判仲間や審判指導者の皆様、そして選手を含めたサッカーに携わっている皆様からのご指導があったからです。これからも、「Play Fair」の気持ちを忘れずに、どんな状況であっても「Player's First」で判断できる審判員を目指してまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。



(サッカー2級審判員 小竹宏幸 氏)

この度、2021年の春に2級審判員に昇級いたしました、小竹宏幸と申します。多くの方々のご指導や周りの方々のご理解、ご協力のおかげで昇級することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。2級となり、今までよりも厳しい環境に身を置くこととなりますが、目の前の1試合1試合を大切に、サッカーの魅力を最大限に引き出せるような審判員になれるよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しく願い致します。



(サッカー2級審判員 臼倉勝寿 氏)

この度、2021年度春に昇級させて頂いた、臼倉 勝寿と申します。このような社会情勢の中で研修会、審判活動などが行える機会を与えて頂いた協会関係者の皆様に御礼申し上げます。また、これまで多くの方々にご指導、ご協力があり昇級させて頂くことが出来ました。決して私だけの力ではありません。この場をお借りして御礼申し上げます。2級審判員としての自覚やスキルの向上、また1人の人間としてまだまだ成長が必要です。与えて頂いた環境を大切に、目の前の1試合を全力で取り組んでいきます。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しく願い致します。

■フットサル3級(F3)、同4級(F4)資格認定講習会のオンライン実施について



(フットサル部会 加藤慎一 氏)

フットサル部会は、従前の実地講習会（一つの会場に受講生が集まり資格認定講習を受講するやり方）に代わり、2021年初めよりオンラインによる講習会を企画運営し、審判有資格者を増やす取り組みを始めました。新型コロナウイルス感染症(Covid-19)の流行拡大の中、2020年2月末以降、実地講習会は、TFA、区市町・連盟FA問わず、3密対策や会場の使用制限措置などで開催できなくなりました。ほどなくフットサル部会には「4級を取得したい」、「3級に昇級したい」という問い合わせが多く来るようになりました。それを受けて、9月にオンライン開催を検討するプロジェクトチームを部会内に立ち上げました。

草苺部会員を中心に、事前視聴映像や指導内容コンテンツの開発、テストの作成、Google Formによるテスト制作、Zoomの操作、Googleアカウントを基にした作業など難題がありましたが、ひとつひとつ解決し開催にこぎつけました。この間、審判委員会登録部会の多大なご指導、助言と援助をいただきました。サッカーでは先行してオンラインによる講習会が実施されており、その準備手続きや開催上の留意点を小池部会長に、その後実際のコンテンツ見本やスライド見本、案内文やデータ等を池尻部会員からご提供、ご教示いただきました。こうしてこれまでにF4級は3回（1月、3月、5月）、F3級は1回（5月）の講習会を開催することができ、毎回40名前後の受講生が講習会に参加しました。多くの受講者がZoomの使い方に慣れていてスムーズに講習会を受講できました。受講者は真摯な態度で集中して講義に参加していました。競技規則についての質問も出て熱心な受講態度でした。競技規則の理解度も高く、競技規則テストの結果も全体的に高得点でした。

講習会も回を重ねる中で、課題もいくつか見えてきました。まず受講生の通信環境が種々あって安定した配信に苦労しました。講義中に回線が切れてZoomから退出してしまったり、スマートフォンではGoogle Formの競技規則テストを開くと映像が切れた状態になるので本人の様子が確認できませんでした。

また、オンライン座学ゆえの設定時間の関係で講義が一方的になり、質問も多く受けられないという制約がありました。また講習会内で実技の設定ができず、F4級ではシグナルや審判法の教授が、F3級では肝心の体力テストや審判法のプラクティカルができない中での認定となりました。この点は今後のF4、F3の審判活動の中で指導を補い審判技術を向上させなければならないと感じています。

2021年シーズンも佳境を迎え、今もフットサル審判資格を望む声は多く、一方フットサル部会にとって審判員増員の必要性も求められています。いつになれば実地講習会が復活できるのか先が見えませんが、区市町・連盟FAが開催に苦労する中、フットサル部会としてオンライン講習会の充実を図るべく進んでまいります。引き続き皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■JFA 女子サッカーデー「女性審判員オンライン講習会」の開催

(審判統括部会 女子パートリーダー 宮崎真理 氏)

日本サッカー協会は3月8日の「国際女性デー」を「女子サッカーデー」と位置付け、誰もがサッカーを楽しめて、誰もが輝ける社会の実現を目指しています。これを受けて2021年3月7日に東京都のサッカー女性審判員を対象としたオンライン講習会を開催致しました。

第一部では「試合映像を用いた競技規則の理解」をテーマに、映像を見ながらファウルを判断する考慮ポイントを整理しました。第二部では「指導者の視点を知りサッカー理解を深める」ことをテーマに、サッカー指導者 松本千晶氏をお招きして講話を行って頂きました。以下に参加された皆さんの声をお届けします！

(サッカー4級審判員 松崎見咲 氏)

2020年11月に4級審判を取得し、どのように活動していきどうしたら上手くなるのか？全然わからない中講習会に参加してとても勇気ができました！息子のチームの練習試合から審判をやり始めていますが、なかなか難しくまずルールさえも解らない中、皆様の免許取得の理由やきっかけ、モチベーションも聞けたり、映像での判定練習など皆でやる事が楽しかったです！自分もサッカーの関わりで新たな人生の一步を踏み出していて、サッカーの魅力の沼にはまっていく、そんな自分を今とても面白く感じています！サッカーママさん！資格取得おすすめです！



【オンライン講習会の活動風景】



【オンライン講習会の活動風景】

(サッカー4級審判員 澤田さやか 氏)

私が、4級審判を取得しようと思ったきっかけは、「Jリーグのサッカーチームのサポーターになり、何年か試合観戦していくうちに、「何でファールを取らないのか」など、ジャッジについて気になるようになり、それならジャッジの世界を覗いてみよう！」と思い始めたからです。サッカー経験が全くない自分がやれるのかという不安はありますが、まずは学んでみよう！そこからスタートだと思うので、これからも学びを進めて行き、ジャッジの笛を吹けるようになりたいですね。

■第5 2回全国中学校サッカー大会（山梨県）に参加して

(中体連審判委員会 阿部直樹 氏)

今年度の「全中（ぜんちゅう）」は、『関東の蒼空（そら）へと放て君の夢』という大会スローガンのもと、綿密な感染症防止対策が施された中、8月19日から5日間の熱戦が繰り広げられました。私達東京都中体連審判部から2級4名が選抜され、東京の代表としてまた東京都中体連の代表として恥じぬよう、自覚と責任をもって「チーム Tokyo 中体連」として参加してきました。私達は、「近県派遣」として「副審・第4の審判」が中心の割当てとなり、女子1級5名・女子1級二次審査受験者4名が主審を担当することになりました。我々が東京「吉田瑞希さん」も素晴らしいパフォーマンスを発揮していました。2年前、「関東中学」が「関東の研修会」から外れ、中体連に所属している関東のRefereeにとって、このような機会がなくなっていました。



【主審を担当する阿部氏】

8月18日、前日のミーティングにて、関東中学で共に切磋琢磨してきた、山梨県中学校体育連盟サッカー専門部審判部・第3種委員長の内藤さんが、『研修会という形で設定はされてはいませんが、長年関東中学をやってきた流れとして、この大会も「競技規則テスト・ミニ研修・試合後のレフリーチームでのフィードバック」等を行い、お互いに切磋琢磨していきましょう。』というお話をいただきました。長田関東サッカー協会審判委員長からは、「選手たちの力をいかに引き出すか、プロアクティブ（自ら進んで動く）3日間にしましょう。」という激励の言葉をいただきました。私たち「近県割当て」組は、「対面式型」の研修会でしたが、「女子1級・女子1級受験者」組は、各部屋から参加の「オンライン型（ZOOM）」の研修会でした。

8月19日、大会1日目。山梨県といえば「富士山」。前日は大雨の中での集合でしたが天候も回復し、雄大な富士山を背に大自然に囲まれながらの素晴らしい試合となりました。私は「山中湖きららサッカー場」にて近畿兵庫県代表「三田（さんだ）学園中学校」VS 北海道代表「下音更中学校」の主審割当てをいただきました。全国大会での貴重な主審ができるということで、自信・毅然さ・冷静さ・オーラ等レフリーとしてのパーソナリティを出し、動きの量と質・スピードを出し切り余裕をもったゲームコントロールをすることができました。指導者は付きませんでした。レフリーチームでフィードバックを行いました。

8月20日（金）大会2日目。「富士北嶺公園球技場」にて近畿大阪府代表「アサンプション国際中学校」VS 四国高知県代表「高知中学校」の副審1の割当てをいただきました。女子1級主審と石山 INS とのフィードバックでは、「コントロールとマネジメント」の違いについて考えさせられました。今回、2019年の帯広のJCY以来の研修会の参加ということで、モチベーション高く非常に成長できた3日間でした。「近県派遣」として参加させていただきましたが、来年、山梨で「関東中学」が行われるということで、この経験から「中体連に所属している関東のRefereeにとって良い研修会」となるよう協力していきたいと思います。



【「チーム Tokyo 中体連」メンバー】

今後も、東京としての中核は勿論、関東での立ち位置も見据えて活動し、また、この経験を是非後進の指導にも生かしていきたいです。自分の審判キャリアは情熱がある限りまだまだ続きそうです。山梨県サッカー協会、そして東京都サッカー協会審判委員会、東京都中体連審判部の皆様に、心から感謝いたします。

★ブラインドサッカーの審判ライセンス取得希望に関しましては、日本ブラインドサッカー協会にお問い合わせをお願い申し上げます。 <https://www.b-soccer.jp/?s=%E5%AF%A9%E5%88%A4&x=0&y=0>